

～地方都市に必要な視点『公共交通を使い分けられる街』～

令和3年度地域政策研究センター 地域協働研究【ステージⅠ】採択課題

課題名：盛岡中心市街地再開発と戦略的公共交通網の構築による持続可能な地方都市モデルの形成と検証－盛岡バスセンター・monaka再開発と、LRT・公共交通のベストミックス－

研究代表者：総合政策学部 准教授 宇佐美誠史

課題提案者：もりおか交通まちづくりLRTフォーラム

研究メンバー：平野佳則（もりおか交通まちづくりLRTフォーラム代表）ほか

技術キーワード：公共交通、LRT、持続可能、地方都市、中心市街地

▼研究の概要（背景・目標）

盛岡市では現在、中心市街地再開発案件が目白押しである。この状況を踏まえ、今般、住みやすさ・暮らしやすさ・楽しさ、そして快適性・機能性というまち全体のあり方と交通政策を一体のものとして考える「交通まちづくり」の考え方を基本として、持続可能な都市のありかたを探求すべく、研究に取り組んだところである。

▼研究の内容（方法・経過）

本研究における基礎調査および啓発活動の一環として、以下の研究活動を行った。

- ◆盛岡中心市街地再開発案件のとりまとめ
- ◆公共交通に対する意識調査
809件のサンプルにより調査とりまとめ
- ◆岩手県立大学地域協働研究公開セッション
トークセッション&パネル展(R3.11.13～14)
- ◆富山市・福井市LRT視察(R3.12.18～19)
- ◆盛岡のまちづくりと都市交通・LRTを考える
公開討論会（R4.2.6）

▼研究の成果（結論・考察）

1. 交通手段を選択理由として、目的地へのアクセスのしやすさが最も重視されている。
2. 一方、他に選択肢がないから自家用車、定時性に不満がありながらもバス、タイヤに不満をもちながらも電車、といった消去法的な選択も相当数検出できた。
3. 都市機能の充実という観点では、おもに公共交通を利用する層、公共交通と自家用車を状況に応じて自由に使い分けできる層ないし地域をどのように広げていくか、という点が重要視される。
4. 盛岡市および周辺地域が、将来にわたって持続可能な都市機能を維持発展されるためには、「公共交通を使い分けられる街」という姿を追求していく必要がある。

▼おわりに（まとめ・今後の展開）

令和4年度における岩手県立大学地域協働研究として、令和3年度の本研究の「続編」としての研究が採択された。これを受け、4年度に以下の研究を進める。

- ◆公共交通実態調査「実査編」
- ◆先進地視察（宇都宮市）
- ◆公開フォーラム
- ◆LRT導入における費用対効果の検証
- ◆地域への普及啓発

本研究の実施において、公共交通の意識調査においては、総合政策学部地域環境調査実習B（宇佐美クラス）受講生に協力をいただき、もりおか交通まちづくりLRTフォーラムとの協業により、今回の成果を打ち出すことができた。ここに記して、感謝申し上げます。

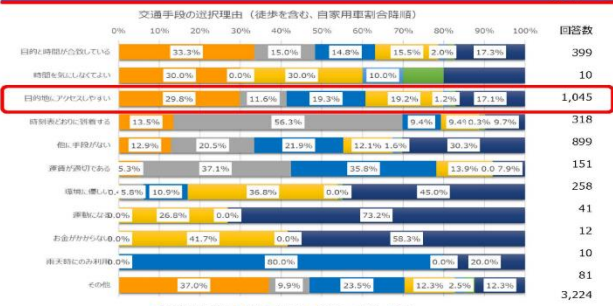


富山市のLRT



福井市のLRT

結果1. 交通手段の状況(選択理由)



- ▶ 利用頻度の高い交通手段上位3種類（徒歩を含む）に対する選択理由を合算集計した。
- ▶ 最多回答は「目的地にアクセスしやすい」とあり、どの交通手段においても、これを重視して選択されていることがわかる。
- ▶ 一方、「他に手段がない」という回答が2項目に多く、交通手段の選択肢の狭さが反映された結果となっている。
- ▶ バスは、他に手段がない、適正運賃、目的地と時間一致している等、幅広い理由で選択されている。
- ▶ 自家用車は利便性で選択されている一方、電車は定時性において優位であることから選択されている。

結果2. 交通手段の状況(利用性向)



- ▶ 居住地域別に交通手段の利用性向をみると、公共交通の利便性および選択肢の多少により、「自家用車派」の割合が左右される、という状況が窺える。